

新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 240 報告

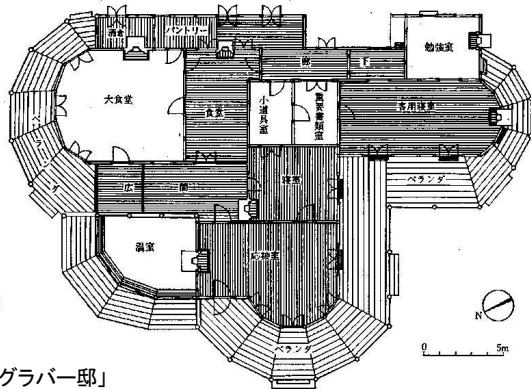
近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；
藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第6回—
—『日本の近代建築』の分析—

2017. 2.22

話：三沢浩

■ 寺子屋 240 は7人の参加で開催されました。

■ 幕末から明治初期、日本に入ってきた西洋建築は直輸入ではなく、日本の技術が理解した「西洋」であり、原点とは異なる「折衷」を生み出します。そこには日本の気候という機能性ととも、その後の帝冠様式にまで続く「日本瓦」採用のような頑迷なまでの自意識も感じます。



長崎「グラバー邸」



北海道の開拓使庁舎



新建・寺子屋(モダニズムの研究)240

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読

2017. 2.22 話：三沢浩

—『日本の近代建築』の分析—

1. 藤森照信は本書の狙いについて語る

- 1) あとがき(下巻末)、山添喜三郎大工(東北大)、村松研(東大)
- 2) 太田博太郎(序説)の不足を補うつもりを通史
- 3) 稲垣栄三の「近代技術」へと渡っている
- 4) 文を書くより好きな物づくりへと移るつもりと(1983.5)

2. 上巻の始まりは「近代建築」の日本へのルート

- 1) ヴェランダコロニアルとは何か(長崎「グラバー邸」)
- 2) ヴェランダとは何か、バンガローとはベンガル系の住宅のこと
- 3) ヴェランダ下見板コロニアルが神戸へ

3. 東まわりのヨーロッパ建築と西まわりのアメリカ建築

- 1) 長崎から神戸への東まわりルート
- 2) アメリカの下見板が明治初期に日本へ
- 3) 北海道の開拓使庁舎は下見板コロニアルになった
- 4) 木骨石造コロニアルは小樽に残された

4. 下見板コロニアルは「北海道開拓の村」に

- 1) 復元された「開拓使庁舎」がある
- 2) 洋造老号、洋造式号はアメリカ人の技術者用住居
- 3) 「時計台」と北大「モデルバーン」などのこと

5. スライド

洋造式号



次回 <寺子屋 240> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読
藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第7回

話：三沢浩

2017年3月15日(第3水曜日定例) PM 7:15～

場所：新宿区水道町2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費：400円

問合せ：大崎元 (有)建築工房匠屋 03-3716-1743 3716-8459(fax) VED03705@nifty.com